

すだち通信 第19号

- 目次
- ・施設長より-1
 - ・栄養士より-2
 - ・すだちプロジェクト3
 - ・パンフレット-4



発行日 令和7年12月
東京都杉並区今川2-14-12
杉並育成園すだちの里すぎなみ

「意思決定支援」に期待すること

「ともに生きる社会を目指して」をスローガンに法人の全国大会が11月に開催され、障害のある利用者が街で暮らし、活動やイベントで交流し、地域に支えられ、そして頼られる存在にもなることが、地域の幸せづくりに繋がればと大きな希望に満ちた大会となりました。

すだちの里は地域生活への移行をスローガンに掲げ開設して20年を走り続けてきました。スローガンの実現に向けて熱い想いをもち邁進してきた職員と、杉並区をはじめとした関係機関の力添えのおかげで、100名を超える利用者を地域へ繋げてきました。令和6年度に国が地域移行の推進に制度的な重みを与え、すだちの里の実践は制度を活かしながら「本人の意思を尊重した地域の暮らし」を実現するステージへと移りました。

言葉で意思を表現できない利用者の方には、複数のグループホーム見学や宿泊体験をして自らの経験をもとに選択してもらうようにしています。活動でも外出先や買いたい物を選ぶ機会を日常的に設け、小さな選択機会も大切にしています。利用者が経験する様々な場面に職員が立ち合い、見守り支えることを通してお互いの信頼関係も深めることができます。地域生活の移行は大きな決断機会が少ない利用者にとって期待と不安の入り混じる選択機会であり、職員が気持ちの面でも支えられるようにしています。

すだちの里の強みはと問われれば、施設建物内にグループホームが10カ所あるようなユニットタイプの居住環境で自宅を離れた場所で生活経験ができること、数々のグループホームへ繋げてきた実績とノウハウのある職員がいること、それが受け継がれてきたことです。卒業していく利用者のお別れ会で、次は私の番だと意気込む利用者を目にすることが多いのも、一つの文化継承となっています。

すだちの里のこれからの10年、20年で大切にしていきたいのは、利用者中心の選択を支え、実現することです。選択肢が多く、満足のいく人生を利用者に送ってほしい。そのために地域交流を通して、利用者も職員も地域の中での繋がりを感じ、深めていきたいです。すだちの里における「意思決定支援」の実践が、障害のある利用者をはじめ職員や関わりのある方々の心の豊かさとなり、共生社会の実現へと繋げていけるよう貢献していきます。

施設長 小林 哲

食事だより

すだちの里開所より給食会社に調理業務を委託し、事業所内で調理して食事を提供していましたが、突然撤退の申し出があり、6月より株式会社ナリコマエンタープライズの食事提供（ニュークックチル方式）に変更することとなりました。

【食材納品業者の検討について】

すだちの里には嚥下咀嚼機能が低下している方が複数いらっしゃいます。食形態を決める時には、医療機関でVF（嚥下造影）検査を受け身体状況を確認しています。機能低下に対応できる安全な食形態の準備が必要でした。

常食・ソフト食・ゼリー食・ペースト食の多様な食形態があること、365日3食異なるメニューが提供できること、そして何より美味しいこと！が業者選びのポイントとなりました。

6月からの食形態の割合



食事に配慮が必要な利用者の割合



【ニュークックチル方式とは？】

セントラルキッチンで調理された食品を完全に加熱調理（中心温度75度以上1分以上）した後、専用の冷却機器で急速冷却、細菌の繁殖しにくいチルド状態（0～3℃）で保存され、事業所に配達されます。食事準備はチルド食品を器に盛り付けトレイへセットします。食事提供時間に合わせて専用の再加熱機器で再加熱し食事提供する方法です。

【変更後の利用者さんの様子】

食事変更後利用者さんからは「毎日デザートが出て嬉しい」「おかずが多くなった」等のコメントが寄せられています。今までは食材が高騰していた為献立作成に悩んでいましたが、株式会社ナリコマエンタープライズの食事に変更してから、よりバラエティー豊かな食事を提供できるようになりました。

ソフト食を提供している利用者の方で食道の病気により食後に嘔吐を繰り返す方がいました。現在は食後の嘔吐がなくなり、食事中は「美味しい」ととても楽しそうに食べる姿が印象的でした。

これからも食事の時間を楽しく安全に過ごしていただくために厨房職員で協力し、食事を提供していきます。

（栄養士 下田 奈保美）



すだちの里すぎなみ Project

地域移行 PJ

…地域移行を支援する！ GH/一人暮らし
マンションへ見学に行こう！

地域移行の過程を“見える化”する目的で地域移行 PJ を進めています。日中サービス支援型 GH や、区内の通所施設を訪問しました。また、重度訪問介護等の福祉サービスを展開している事業所を見学し、利用者さんの暮らしの選択を増やすアイデアをいただきました。より地域移行支援を促進する為に、現在 GH の見学や体験できる機会を増やす活動をしています。

見学内容をすだちの里全体で共有し、自施設に取り入れられることは積極的に取り組み、暮らしの場の選択肢が広がる支援を繋いでいきます。

(リーダー生活支援員 関根 将太)



美味しい食事 PJ

…改めて考える食事の大切さ・業者・
オペレーション変更の対応

食事の時間が利用者さんにとって楽しく嬉しい時間であって欲しいという思いで、安心安全で美味しい食事の提供が出来るように日々心掛けています。利用者さんからは「美味しい」「毎日の食事が楽しみ」と声をかけて頂けることで厨房職員もやりがいを持って食事の提供をすることが出来ています。これからも季節感のある食事、イベント食の提供等も含めて食事の時間が楽しく嬉しいひと時となるよう努めていきます。

(主任生活支援員 菊地 大介)



ICT 活用 PJ

…パソコン管理、支援ソフト管理、
IT リテラシー構築、業務効率化、スマホ検討

すだちの里では平成 23 年より業務支援ソフトを導入しています。ケース記録は PC で記載し社内ネットワークに保存されています。近年の AI、クラウド、アプリの多様化に伴い、蓄積されたデータの効率的かつ有用な活用方法を検討しています。必要な Wi-Fi 環境、PC、タブレットを揃え、より良い利用者支援に繋がられるよう整備を進めています。

(主任生活支援員 小野 能広)



社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 杉並育成園 すだちの里すぎなみ

概ね3年間の利用期間を目安に、地域での生活へ移行することを目指しています。
すだちの里では、一人ひとりの生活スタイルを大切に地域生活を支援します。

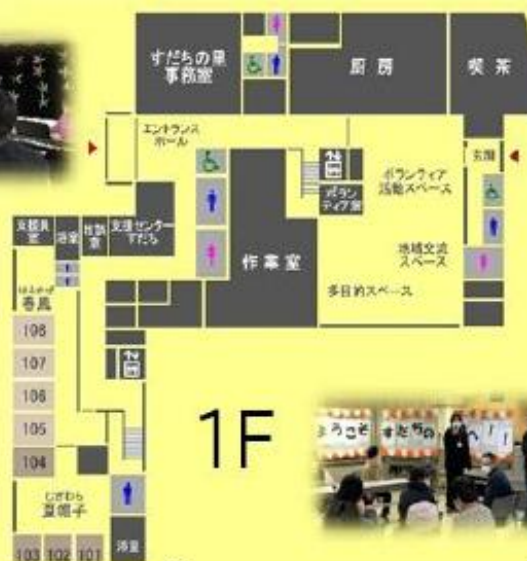
すだちの里から地域生活等への移行者数～R7年11月まで

H18～R2	R3	R4	R5	R6～	計
84名	6名	5名	3名	6名	104名
移行先					
グループホーム	単身	自宅	他施設	病院	
80名	2名	10名	9名	3名	



すだちの里案内図

1F: 活動室、男性2ユニット
2F: 男性4ユニット
3F: 女性4ユニット



1F



2F

3F



設置種別: 障害者総合支援法に基づく障害者支援施設
杉並障害者自立生活支援センターすだち
サービス内容: 施設入所支援50名(男性30名、女性20名)
短期入所6名(男性3名、女性3名)
生活介護44名(分働ゆずの森八幡含む)
就労移行支援6名
自立訓練(生活訓練)6名
開設: 平成18年4月1日



杉並育成園 すだちの里すぎなみ
〒167-0021 東京都杉並区今川2-14-12
TEL:03-5310-3361 FAX:03-5310-3561
mail:sudachi@ikuseikai-ky.or.jp
URL:https://sudachinosato.ikuseikai-ky.or.jp

杉並障害者自立生活支援センターすだち
TEL:03-5310-3362 FAX:03-5310-3561
mail:shien.sudachi@ikuseikai-ky.or.jp

